

講義ユニット名	ウイルス学	所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学 (内線 5157)
		メール	tsaka@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学 (内線 5157)
		メール	tsaka@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	主として講義形式でおこなう。演習として、小テスト、アンケートなどを行うことがある。実験を中心とした実習を行う。		
概要	ウイルス学は病原微生物学の一分野である。ウイルスはヒトに多くの病気をおこし、インフルエンザウイルス、ノロウイルスは流行を繰り返して社会的な問題にもなっている。本ユニットの講義実習では、ウイルスの性質、増殖機構を理解し、さらに病気、その予防と治療についての知識を習得する。		
講義ユニットの 到達目標	<p>ウイルス粒子の構造を図示し、各部の機能を説明できる。</p> <p>構造と性状によりウイルスを分類できる。</p> <p>DNA ゲノムとRNA ゲノムの複製・転写を一般化し、説明できる。</p> <p>ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟と放出の各過程を説明できる。</p> <p>ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。</p> <p>ウイルス感染の種特異性、組織特異性と病原性を説明できる。</p> <p>主な感染様式の具体例を説明できる。</p> <p>インターフェロンの誘導と作用について説明できる。</p> <p>ウイルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。</p> <p>ワクチンによるウイルス感染症予防の原理を説明できる。</p> <p>ワクチンの種類と問題点を説明できる。</p> <p>主なDNA ウイルスが引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>主なRNA ウイルスが引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>インフルエンザウイルスの流行および予防、治療について説明できる。</p> <p>レトロウイルス<ヒト免疫不全ウイルス>の特性と一般ゲノム構造を説明し、分類できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義については、出席は試験の受験要件に含めない。実習については全ての出席を試験の受験要件とする。		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとしている。		
評価法	MCQ形式と記述形式の併用で試験を行う（配点：MCQ 60点程度、記述 40点程度）。 本試験における合格基準点は60点とする。		
推奨参考書	<p>シンプル微生物学 改訂第6版 南江堂 東匡伸・小熊恵二編（2017）</p> <p>戸田新細菌学 第34版 南山堂 吉田眞一・柳雄介・吉開泰信編（2013）</p> <p>レビンソン微生物学・免疫学 原書第11版 丸善出版 吉開泰信・西山幸廣監訳（2012）</p> <p>標準微生物学 第12版 医学書院 平松啓一・中込治・神谷茂編（2015）</p> <p>病原微生物学 基礎と臨床 初版 東京化学同人 荒川宣親・神谷茂・柳雄介編（2014）</p>		